

令和元年度岩手県立美術館協議会議事録

1 日 時	令和2年2月26日(水) 13:30～15:30
2 場 所	岩手県立美術館 会議室
3 出 席 委 員	石塚庸子、伊藤真紀子、大衡彩織、菊池房江、佐々木和哉、佐藤あい子、佐藤玄壺、坂東学、藤代伸子、藤村幸雄、藤原哲(以上11名)
4 欠 席 委 員	岩館智子、菅しのぶ、館澤敏子(以上3名)
5 (県側出席者) 生涯学習文化財課	佐藤公一総括課長、佐々木義秋生涯学習担当課長、川村信主任主査、菊池央主査
6 文化振興事業団	工藤啓一郎事務局長兼総務部長
7 美 術 館	藁谷収館長、中野俊也副館長、田中芳樹総務課長、吉田尊子学芸普及課長、加藤俊明上席専門学芸員、土谷文子主任専門学芸調査員、杉田友視主任

1 開 会	事務局より、委員14名のうち11名の出席により、岩手県立美術館管理運営規則第9条第2項に規定する委員の半数以上の出席という要件を満たしている旨が報告された。
2 委 員 紹 介	(出席者名簿により自己紹介)
3 職 員 紹 介	(出席者名簿により出席職員を紹介)
4 館 長 挨 拶	藁谷館長より挨拶があった。(挨拶内容省略)
5 議 長 就 任	岩手県立美術館管理運営規則第8条第2項の規定により、議長は会長が務めることになっていることから、以後の議事は、石塚会長が進行した。
6 議 事 (1) 説明事項 説明事項ア 【質疑応答】	「平成30年度美術館協議会における主な意見・要望と対応状況について」(資料1)、事務局から資料1により説明を行った。(説明内容省略)
◆ 石塚委員	コレクションという表現はとても良いと思う。常設展よりコレクションという響きが新鮮で、ちょっと工夫したものを見せてもらえるような印象がある。
◆ 美術館	他館の状況も調査し、常設展をコレクション展示に名称を変更する方向で検討している。変更に当たり、予算等クリアすべき課題もあり、もう少し時間を頂きながら今後も進めていきたい。
◆ 大衡委員	委員から出た要望に対し、報告だけではなく実際行動に移していたことがよく分かった。特に、「ジブリの大博覧会」の時は、一般の目には分からないかもしれないが、行列に対するスタッフの一生懸命な対応はよく伝わった。また、常設展もあるという声掛けも合わせており、努力していると思った。
◆ 石塚委員	来館の際、常設展の観覧への声掛けがあり、現場での努力が感じられた。 また、アプリーレのバックヤードツアーの特集もとても素敵だった。新しいスタイルで学生に紹介する時、こういったものがあればとてもいいと思った。

説明事項イ 【質疑応答】	「平成 31 年度・令和元年度事業実施状況について」（資料 2） 事務局から資料 2 により説明を行った。（説明内容省略）
◆ 伊藤委員	ファミリータイムは、平成 30 年度途中から始まったと思うが、最近の利用の傾向や状況などはどのようになっているのか。また、要望だが、昨年 11 月に開催した当協議会以降の前年度からの入場者数等の利用状況についても報告してほしい。
◆ 美術館	企画展の来館者数によって利用人数も変わる。ジブリ展期間中は 2 桁の利用があったが、利用者 ^{ゼロ} の日もあり、そこまで多くの利用者がある状況ではない。昨年度より利用者は減っているので、今後もツイッターやチラシへの情報掲載など周知を図りたい。また、要望のあった前年度開催以降の資料については次回から準備する。
◆ 伊藤委員	なかなかこういう企画は 1 年では浸透しないもの。2～3 年かけて、皆さんに知って頂く企画だと思うので是非今後も継続して欲しい。
◆ 菊池委員	アートデオヤコも順調に参加者を伸ばしていると思うが、実施から何年になるのか。
◆ 美術館	10 年以上は継続している。毎回 10 組限定なので参加の希望に添えない事もある。アートデカゾクは人数制限なしで企画しているが、人数の伸び悩みもあり、今後の検討課題としている。
◆ 菊池委員	アウトリーチ事業も数値を伸ばしているようだが、具体的にはどのような内容になっているのか。
◆ 美術館	当館の所蔵作品を集めたアートカードを利用し、ゲームのように楽しんでもらいつつ、鑑賞教育の導入としてプログラムを実施している。5 か年計画で地域を限定して募集しているが、実際の募集は少ないのが現状である。
◆ 石塚委員	小学生の職場体験は受け入れているのか。
◆ 美術館	職場体験は受け付けていない。バックヤードは公開できない場所が多く、体験できない仕事の方が多いという理由もある。但し、質問に答えることはできるので、そのような対応を行っている。
◆ 石塚委員	出前授業は小学校だけではなく、中学、高校でも実施しているのか。
◆ 佐々木委員	中学、高校は専科の先生がいるので利用は少ないのではないかと。学校によっても違うと思うが、利用したい先生からのオファーはあると思う。
◆ 美術館	高校の美術部へアートカードの貸し出しをすることはある。当館の職員は行かず、アートカード返却時に利用の様子を報告してもらっている。所蔵作品は HP から検索できるので、アートカードの作品指定といった要望にも応えて貸し出ししている。
◆ 佐々木委員	高校の美術などの部活動でも専門の先生がいないことはよくある。その場合、美術館職員が出向いて指導して頂くこともあると思う。また、不來方高校美術部で中学生向けのデッサン教室を年 3 回開催している。それについては、毎回インターネットを通じて募集しているが、すぐに満席となる状況だ。体験したい人はたくさんいるということだし、そういう企画もニーズはあると思う。
説明事項 ウ 【質疑応答】	「令和 2 年度事業実施計画」（資料 3） 事務局から資料 3 により説明を行った。（説明内容省略）

◆ 藤代委員	友の会からの要望としてお伝えしたい。展示事業の常設展については、今年度の柳原義達のように、各部屋に他館から作品を借りて展示する機会を検討してほしいとの声があった。また、教育普及事業では、参加できなかった人のためにも、開催した各講座の簡単なレジュメなどをHPに掲載を検討してほしい。
◆ 美術館	常設展示で他館の作品を借用し、展示したことは過去にある。承諾や経費等状況を踏まえ、予算的に可能であれば視野に入れつつ検討したい。
◆ 石塚委員	県内で所蔵作品を貸し合うのは、多くの人に観ていただくために良いのではないかと。
◆ 大衡委員	実際、作品の貸し借りは多いが、施設環境の管理面でクリアできる施設は県内では多くない。
◆ 伊藤委員	萬美術館でも作品を借りることはあるが、運送費の負担や管理等大変厳しいものであることはご理解いただきたい。
◆ 佐々木委員	不来方高校は沿岸など、様々な地域から生徒が集まっている。文化普及振興の立場から、美術館に丸投げではなく、後進の育成のためにも県の施策として、美術品に触れる環境をつくってほしい。地域格差がなく、県民が芸術に触れる機会を作っていただきたい。
◆ 大衡委員	芸術に触れるだけではなく、公共の施設でどのように振舞うかというルールやマナーを体験することも、美術館での学びとして大切だと思う。
◆ 佐々木委員	遠い地域においては、公費で交通費を負担するなど、行きやすい環境づくりも大切だと思う。そういうニーズにも応えてほしい。
◆ 生涯学習文化財課	他部署での実施であるが、沿岸部からは復興支援の一環として、美術館に限らず、遠隔の施設へのバスを運行する事業は行っている。来年度も実施予定である。
◆ 佐藤亥委員	震災後、中総体の時期に文化部生徒が若冲展を観に行くと大変喜んでいて、バスをもっと上手にできると良いと思う。
◆ 藤村委員	住民として地域の環境美化に取り組んでいる。「もりとびあネット」でも年3回のクリーンキャンペーンを行ってはいるが、市としても各施設との連携を図りながら対応してほしい。また、地元主催の「ゆいっこまつり」のアンケートで、公園内のわかりやすい看板がほしいとの声が寄せられた。今後の検討の一つとしてほしい。
◆ 美術館	「もりとびあネット」については、クリーンキャンペーンのほか、ネットワークの構築の一つとしてスタンプラリーやチラシの設置などに取り組んでいるが、県と市という立ち位置の違いや予算の兼ね合いもあり、現在は見直しの段階にきている。今後は、大幅な見直しもありうる。
◆ 伊藤委員	昨年の「紅子と省三展」の際、県立図書館とコラボする企画があったと思う。来年度の企画展についても、継続してほしい。
◆ 美術館	県立図書館からは、すでに4月からの「ムーミン展」に合わせ、関連した企画を検討中との連絡を受けている。
◆ 坂東委員	正直、美術館はあまり身近ではなく、何のためにあるのか、という実感である。予算やアクセスなど様々な内容が話し合われているが、個人的には観たい展示があれば料金は払って当然、しかし、教育普及的な面ではそれぞれの立ち位置で変わってくるのだと感じた。内容を分けていただくと意見しやすい。また、「ジブリ展」については、多くの人が来場し、県民としても有り難い企画であったと感じている。
◆ 館長	当館でこれまで様々な企画展が行われてきたが、目的のひとつとして、敷居を低くしようという狙いがあった。日本を含め世界的にもファインアートだけではなく、サブカルチ

	<p>ヤーといわれる企画も多くなされている。その意味で今回の「ジブリ展」は、初めて美術館に来た人も多く、非常に意義があったと思う。新しいページを開いたという気持ちだ。同じような企画が次々出来るかといえば、それは別の話になるが、今後もいろいろな形で展開していきたい。そういう意味でもジブリの力は強かったと感じている。</p>
◆ 石塚委員	<p>「ジブリ展」は、これだけの来館者を事故もなく運営したことは、スタッフにとっても財産になると思う。さらに、今年の企画展は、「広重展」の際のクイズなどといった、大人も子供も楽しめる企画が常にあり、よく考えられていたと思う。</p>
◆ 美術館	<p>常設展の名称については、予算措置も含めて来年度で固めていきたい。また、割引制度については、この協議会でも色々な提案をいただいたので、一步一步進めていきたい。</p>
説明事項エ 【質疑応答】	<p>「令和2年度企画展概要について」(資料4) 事務局から資料4により説明を行った。(説明内容省略)</p>
◆ 石塚委員	<p>奈良美智氏が来館するのか。Human And Animalのタイトルではわかりにくいですが、人気作品は楽しみだ。</p>
(2) 協議事項	<p>「岩手県立美術館の運営について」 事務局から下記①②の説明を行った。 ①常設展の名称には、予算措置も含めて来年度で固めていきたい。 ②割引制度は、本協議会でもいろいろな提案をいただいたので、一步一步進めていきたい。</p>
◆ 石塚委員	<p>美術館の運営全体について、意見はないか。</p>
◆ 伊藤委員	<p>ジブリ展は普段美術館に来ることのない人も足を運んだというお話があったが、とても大事なことだと思う。また、岩手ゆかりの作家の展示として、唐武さんなど、県内でもあまり知られていないような作家を取り上げるのは、企画展としては地味で目立たないものかもしれないが、美術館としては大事な仕事だと思う。これからも自主企画についてはさらなる研究と展示をお願いしたい。</p>
◆ 大衡委員	<p>先ほどの美術館って何のためにあるんだろう、という根本的な問いはすごく大事なことだと思う。一言で返事が出来るものでもないが、今日配られた資料の中に、基本理念や運営方針という言葉があるが、それをもっと明確に打ち出すような表示、あるいはこういった資料の中にそれが示されていれば、もう少し分かりやすくなるのではないかな。 例えば、一関博物館では基本理念や運営方針を小さな紙に印刷をして、チラシやアンケートのそばに設置している。一般の方にもわかるよう、何らかの形にした方が良いのではないかな。基本理念と運営方針がないと、講演会や各イベントの集客の話題になってしまい、何をすると、何を指して、どういう目的をたてているからこういう行事をするのだということが、バラバラに解釈されてしまう恐れがある。協議会の時は、そこをわかるような表現にすれば、混乱なく理解できるのではないかな。また、去年の協議会でも、各委員よりもっと広報に力を入れた方がよいとの声があったと思うが、委員にもっとPRをお願いするためにも、協議会の開催前などにバックヤード見学や美術館を知ってもらう試みがあってもよいのではないかな。検討願いたい。</p>
◆ 館長	<p>当館は2021年に開館20周年の節目を迎える。お話あったことについては、時代に合わせた形で表現に取り組んでいきたい。また、委員の方にバックヤードをご紹介することは大事だと思うので、次回検討したい。</p>

◆ 佐々木委員	今、お話のあった、基本理念や運営方針については、会議冒頭に確認し、存在意義というものを協議会では、きちんと理解して議論を深めることが大事だと思う。鋭意努力していただきたい。
(3) その他	「その他」について (特になし)
◆ 石塚委員	以上をもって本日の協議を終了する。 (終了)